学校だより

草木が芽吹く季節

校長　遠藤　康弘

立春を迎え、近所のスーパーの売り場では、節分の豆まき用の豆に代わって、ひなあられなど桃の節句に向けた商品が並び、ひな祭りの曲が流れるようになりました。立春は過ぎたものの雪が降ったり寒い日が続いたり、春を感じるにはもう少し時間が必要なようです。「１月は行く、２月は逃げる、３月は去る」と言われています。つい先日年が明けたばかりと思っていましたが、あっという間に３月になってしまいました。３月の旧称は「弥生」。「弥生」の語源を調べたところ、「いやおい」から「やよい」となった説が有力だそうです。「いや（弥）」は、「いよいよ」「ますます」などの意味であり、「おい（生）」は、「生い茂る」と使われるように草木が芽吹くことを意味するそうです。厳しい寒さの中での冬ごもりに区切りをつけ、やがて生命が復活する春になり、新たなスタートの時期を迎えるということでしょうか。

３月５日には啓蟄（けいちつ：冬ごもりをしていた虫たちが土の中から出てくる頃）を迎えます。３月は、様々な生き物が新たな息吹を感じ活動を始め、まさに花開く春がやってくる時期です。私たち人間にとっても、新たな目標に向けて旅立つ時期でもあります。一年間、四季の移ろいの中で成長をした子ども達には、春の新たな息吹を胸に蓄え、それぞれ一つ上のステージへとステップアップしてほしいと願っています。コロナ禍という長い冬ごもりの生活が終わり、新たな息吹に満ち溢れる春を迎えられるといいのですが、しかしながら冬の出口はいったいいつになるのやら、悩ましい日々はまだしばらく続きそうです。

今年度の久原フェスタは、昨年度に続き感染防止対策を講じての開催となりました。保護者の皆様には、分散での参観や手指の消毒・検温、さらには椅子の拭き取りなど多々御協力いただき、ありがとうございました。今年始めからのオミクロン株による感染拡大はとどまることを知らず、子供たちのフェスタの準備に大きな影響を及ぼしました。困難な中でも、グループの友達と協力し、互いに補いながら学習を進める様子に「さすが久原の子」と、一人一人の成長を感じました。子供たちの学びの姿はいかがでしたか。準備の段階では、限られた時間内にまとまるよう、友達と分担しながら資料や原稿を作成し、内容を暗記するくらい何度も練習を重ねていました。また、タブレットの活用も大きな特徴の一つです。学年を問わず、画像や映像を駆使し、また調査内容をグラフにして表すなど、質の高いプレゼンテーション力に驚きました。身近な学習ツールとして、これからもますます使いこなしていくことでしょう。

当日は、お家の方や地域の方が見に来ていることで「とても緊張した」そうです。発表が終わった後の何とも言えない安堵の表情がとても微笑ましく感じました。この「ほどよい緊張感」が味わえるのも久原フェスタの意義の一つ。「自分を鍛える場」にもなりました。久原フェスタは今回で十八回目を数え、言うまでもなく、代表的な本校の特色ある教育活動の一つです。歴史を紐解いてみると、当時の清水一豊校長先生が「子供一人一人が主役になる行事にしたい」と考え、始められました。初回からのねらいである、「一方方向の発表ではなく、聞き手も参加し、互いに交流することを通して、互いに学び合う『双方向の学び』を実現する」というコンセプトが、コロナ禍であっても脈々と息づいていることに誇りを感じます。２月22日の久原フェスタ・エンディングでは、私から各学年それぞれの取組について感想を伝えました。あまりにも素晴らしい子供たちの姿に、気が付いたら20分間も話してしまいました。３月11日の「６年生を送る会」、３月24日の「卒業式」と卒業にかかる行事を控え、６年生にとっては久原小学校での「集大成」とも言える時期です。この１年間、優しくて頼もしい。下級生の憧れの存在であった６年生の晴れの門出をみんなで応援するとともに、１年生から５年生の子供たちも、次の学年に向けて希望がもてるよう、教職員一同、子供たちの「最後のひと頑張り」を支えてまいります。今月もよろしくお願いいたします。

教育目標

歴史を誇る久が原の大地に　深く根を下ろし桜のように明るく潔く、欅のように天高く伸びてゆく久原小学校に学ぶ子は、

一、健康な子　二、考える子　三、やさしい子　四、礼儀正しい子

日	曜	予定	備考	日	曜		
1	火		SCS	17	木	B時程	SCU OP☆
2	水	保護者会（２・４・５年） 放課後算数補習教室（６年）		18	金		
3	木	B時程	SCU	19	土		
4	金	B時程　発育測定（６年） 放課後算数補習教室（３年）		20	日		
5	土			21	月	春分の日	
6	日			22	火	午前授業（１～５年） 卒業式予行（６年）	
7	月	全校朝会		23	水	B時程給食終　大掃除（６年）	
8	火		SCS	24	木	卒業式	
9	水	B時程　安全指導 保護者会（１・３・６年）　感謝の会（６年） 放課後算数補習教室（４・５年）		25	金	土曜日時程　修了式　大掃除	
10	木	B時程　避難訓練	SCU	26	土	春季休業日始～４／５（火）	
11	金	B時程 放課後算数補習教室（３年） ６年生を送る会		27	日		
12	土	３時間授業　土曜算数補習教室 学校運営委員会	校	28	月		
13	日			29	火		
14	月	全校朝会　クラブ活動		30	水		
15	火			31	木		
16	水	B時程					

（備）SCS：佐々木スクールカウンセラー来校　SCU：浦山スクールカウンセラー来校　OP☆：校長室オープンデー（16時～18時）校：校庭開放（14時～16時）

久原フェスタを終えて

久原フェスタ委員長　内田　夏実

十八回目の開催となりました久原フェスタが二月十八、十九日に行われました。今年度も新型コロナウイルスの感染予防対策を行ううえで、ＰＴＡ役員の皆様、保護者の皆様に多大なる御協力をいただきました。感謝申し上げます。

そして、子供たちも様々な制限の中、久原フェスタに臨みました。子供たちがそれぞれのブースで、この一年間で学習したことから考えたこと、伝えたいことを全力で発信する姿が見られました。当日の発表の一部を紹介します。

●一年生　「みんななかよし　みんなきらりん」

入学してからの一年間の学習を振り返り、学校探検や御家庭での過ごし方の工夫などについて発表したり、大切に育てたお花など四季折々の自然と触れ合いながら、工夫した遊びを紹介したりしました。

●二年生　「わくわくはっけん　つたえ隊」

身近な物を使った遊び、身の回りにいる小さな生き物、みんなが住んでいる久が原の町のすてき、自分たちで育てたかわいい野菜について発見したことを工夫しながら伝えました。

●三年生　「〇〇はかせになろう」

名所、海苔づくり、銭湯、羽田空港、昔と今の土地の使われ方などの大田区の自慢できるところや、元の姿とは違う姿になっている食べ物のひみつ、理科で学習した身の回りの不思議をはかせとなり伝えました。

●四年生　「久が原プロジェクト」

学校のすぐ近くにある呑川を実際に歩いてみて気づいたことや学んだこと、東京手描友禅を体験してみて感じた日本各地にある「伝統」に隠された技術や想いを様々な発表方法で伝えました。

●五年生　「これからも続く未来のために…」

世界で課題とされているSDGs。持続可能な社会に向けて、十七の目標のうち十六の目標について調べ、取り組みました。私たちが住む地球が抱えている課題に対し、自分たちができることを考え、伝えました。

●六年生　「健康に過ごすために　～わたしたちにできること～」

新型コロナウイルスの影響で多くの変化があったこの数年。久原小学校の最高学年として、この課題にどう取り組んでいくか考えました。手洗い、運動、食事、生活リズム。自分たちの実践を踏まえ、健康のためにできることを伝えました。

今年度の久原フェスタは終わりましたが、子供たちの学びは続いていきます。子供たちは、他の学年や保護者の皆さまから頂いた付箋をもとに、さらに学習の幅を広げて取り組んだり、課題を見付けて解決しようとしたりしています。これこそ、今年度の学習の集大成が実った結果です。これからも日々の子供たちの多様な成長の場面を、大切にしていきたいと考えます。

今年度の校内研究を終えて

研究推進委員会　糸川　由佳

研究主題「豊かなスポーツライフを楽しめる子～体育・健康教育における個別最適な学び・協働的な学びの実現～」を掲げ、二年間研究を進めてまいりました。今年度は十一月十五日に大田区教育委員会研究推進校研究発表会を開催し、研究の成果を発表することができました。子供たちが楽しく主体的に学ぶことができる授業づくりをするとともに、運動や健康に親しめるような校内環境の整備も進めてきました。どの学年も生き生きと体育の授業に取り組んでいました。また、休み時間には進んで体を動かそうと外遊びに取り組む様子も見られ、嬉しく思います。保健や食育の学習では、生活リズムモンスターとの対戦を御家庭で取り組んでいただきました。御協力いただき、ありがとうございました。研究の成果を生かして、今後も子供たちの体力向上と健康への関心を高めていけるよう努めてまいります。

一年間の振り返り

生活指導部　佐藤　麻衣

生活指導部では、校内で安全に過ごすためのルールや、校外でのマナー、心身の健康や食習慣に関して指導してきました。子供たちは自分自身を振り返り、常に新しい目標に向かって挑戦し、成長することができました。御家庭でもこの一年間を振り返り、お子さんの成長を感じる瞬間があったと思います。ぜひ、その一瞬一瞬を大切にしてたくさんほめてあげてください。子供たちの何よりの励みは、御家庭での声掛けであり、またそれは、新たな挑戦への自信に必ずつながっていきます。

生活目標	一年間のまとめをしよう。
給食目標	自分の食習慣を見直そう。
保健目標	耳を大切にしよう。 一年間の健康生活の反省をしよう。
安全目標	交通の規則を守ろう。